

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名	香川県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	綾南町立滝宮小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	23
児童数	53	45	55	53	59	67	6	338	

研究の概要

1. 研究主題

自らかかわり、主体的に学ぶ子どもの育成 - 少人数指導の日常化 -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

3年生～6年生・算数
 昨年度の研究実績を生かすため。
 3年生、6年生・国語
 4年生、5年生・理科
 昨年度の研究成果から、教科の枠を広げ、研究に取り組むため

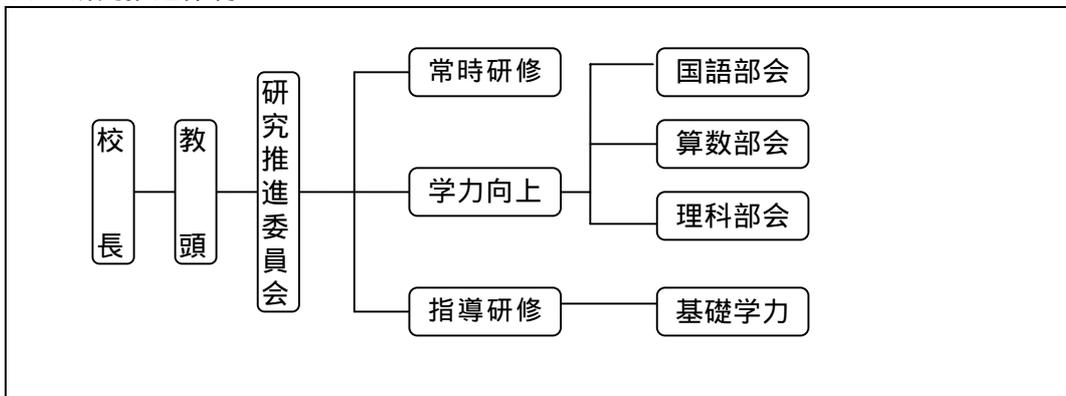
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 自らかかわり、主体的に学ぶ子どもの育成 - 確かな力をつける - 仮 説 ア 発展的な学習と補充的な学習を指導の個別化と学習の個性化の視点からとらえることで、より個に応じたきめ細やかな指導の充実が図れるであろう。 イ 習熟度別少人数の分け方を工夫することで発展的な学習および補充的な学習を効果的に展開することができるであろう。 ウ 児童の意欲を引き出しながら、学びを支える基礎的な学力を育成するための指導を充実することで確かな力をつけることができるであろう。</p> <p>研究の内容 ア 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発 イ 少人数指導など個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善 ウ 基礎的な学力の育成（読み・書き・計算の指導の充実）</p> <p>研究の方法 ア 児童の実態調査から学年ごとに研究の視点を決め、数値目標を設定し、課題解決に取り組む イ 系統を考えた教材の開発と児童の興味・関心に応じた教材を開発する ウ 各単元において、いつ、どのような指導方法・指導体制を取り入れればよいか計画・実践をする エ 児童の意欲を引き出しながら、学びを支える基礎的な学力の育成するための指導方法の工夫をする</p>
--------	---

平成 15 年度	<p>テーマ - 少人数指導の日常化 -</p> <p>研究の見通し 少人数指導を日常化するシステムをつくることで、個に応じた指導がより充実し、発展的な学習及び補足的な学習の研究及び教材開発が進むであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>ア 発展的な学習や補足的な学習など個に応じた指導のための教材の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 算数科、国語科、理科での教材の開発と分析 ・ 国語科、理科における発展的な学習及び補足的な学習の進め方の研究 ・ 昨年度の実践の修正 <p>イ 少人数指導など個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チーフティーチャー制を取り入れた少人数指導体制 ・ 学習指導計画の工夫 ・ 児童の学び方に対する意識調査を生かした指導計画づくり <p>昨年度中間報告書との変更点及び変更理由 テーマを「思考力・表現力を育てる」から「少人数指導の日常化」へと変更した。研究内容によりせまるために、2年次はより多くの実践の積み重ねこそが必要だと考えたからである。</p>
----------------	--

平成 16 年度	<p>テーマ つまづきに応じた指導の追求</p> <p>研究の見通し チーフティーチャー制を充実させ、日々の評価（形成的評価、授業評価）システムを構築することによって、つまづきに応じ、よりきめ細やかな指導が可能になるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>ア 発展的な学習や補足的な学習など個に応じた指導のための教材の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 15年度の授業実践の修正、教材の開発 ・ つまづきに視点をあてた補足的な学習の教材の開発 <p>イ 少人数指導など個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チーフティーチャー制の充実 ・ 児童の学び方に対する意識調査を生かした指導計画の充実
----------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

1 少人数指導の日常化に向けて

(1) チーフティーチャー制

教育課程の工夫

3年...算数・国語 4・5年...算数・理科 6年...算数・国語を研究教科とし、時間割を学年でそろえる。

研究教科については1学年・教科4人でチームを組み指導にあたる。(3年算数のみ3人)

4人で単元を分担し、分担された単元について中心になって指導計画を立てる。中心になる教師をチーフティーチャーとする。

チーフティーチャーの役割

ア 分担された単元についての教材研究をし、学習指導計画書を作成し、メンバーの教師に提示する。

イ 指導を進めながら、メンバーに意見を聞いて、記録を残し、また、指導計画を修正する。

ウ 指導後、評価ノートをメンバーに配り、継続的な記録が残るようにする。

エ 単元終了後、記録を整理し、まとめる。

期待される効果

ア 1学期あたり1～2単元の教材研究を行えばよく、より深い教材研究が期待でき個に応じた発展的な学習や補充的な学習の教材開発が推進される。

イ 研究教科以外の教材研究をする時間が確保され、教員の指導力のアップが期待できる。さらに、チームで指導を進めるので、互いに刺激し合い、評価の継続的な記録がとれ、より個に応じたきめ細やかな指導が期待できる。

成果

ア 学習指導実践の記録及び教材開発を以下のように行うことができた。

(1・2学期の実践)

3年...算数科 - 4単元、国語科 - 7単元

4年...算数科 - 3単元、理科 - 2単元

5年...算数科 - 3単元、理科 - 3単元

6年...算数科 - 2単元、国語科 - 4単元

さらに、1・2年生は、2学級2教師で工夫した実践を行った。

1年...算数科 - 1単元

2年...算数科 - 2単元

合計 30単元の記録を滝宮小学校ホームページに公開している。

イ 少人数指導に対する児童の意識

設問1 勉強の内容がよく分かる

設問2 進んで手をあげている

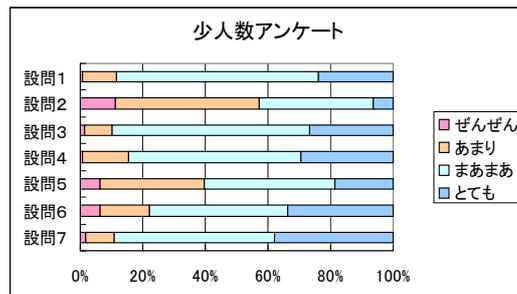
設問3 先生や友だちの話をよく聞いている

設問4 自分の力で学習問題を解決しようとしている

設問5 分からないことなどは先生に聞きやすい

設問6 コースに分かれて学習することでその教科が好きになっている

設問7 選んだコースは自分に合っている



ウ 少人数指導に対する教師の意識

設問1 学習内容を理解できている児童生徒が増えている。

設問2 分からないことを積極的に質問する児童が増えている。

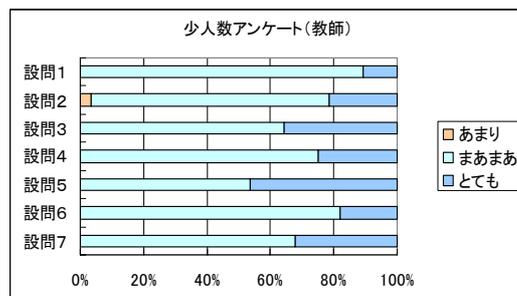
設問3 授業に集中して取り組む児童が増えている。

設問4 主体的に学習問題の解決に取り組む児童が増えている。

設問5 少人数に分かれて学習することは児童に違和感なく受け入れられている。

設問6 児童の理解や習熟の程度に合わせて授業が実現できている。

設問7 少人数指導は児童にとって効果的な指導方法である。



エ 県の調査との比較

児童に対してのアンケートの状況の様相は県の調査と同様である。+傾向で捉えている児童の割合は設問1・3・4・6・7については県調査を上回っている。設問2の挙手については、少人数のため、挙手をしなくても話し合いが進んでいくためだと考えられる。設問5については、-傾向の児童が多く、対応の仕方を見直す必要がある。

教師に対してのアンケートの状況は、ほとんどが+傾向で捉えており、チーフティーチャー制を組んだことによる教師の意識の向上が見られる。設問2・3・4は、とても(よくあてはまる)でも県調査を上回っている。児童の成長を見つめられている教師の姿が見える。県の調査がフロンティアティーチャーを対象とした調査であることから考えると本校の職員が少人数指導に対して前向きに取り組み成果を感じていることが強く表れており、チーフティーチャー制が有効に働いたものと考えられる。

2 学び方に対する意識を向上させる取組

(1) 学び方の意識調査

昨年度は、算数科における学び方の意識調査を行い、意識向上のための数値目標を決定し、具体策を考え取り組んだ。本年度は、国語科、理科においても研究学年においても意識調査項目を検討し、調査 数値目標の決定 具体策の策定 実践を行った。算数科においては、調査項目の内容を再検討し、引き続き行った。

(2) 結果

次の意識調査は3～6年が重点指導事項とし、学年ごとに具体策を考え指導にあった。

算数科 設問 1つの問題を解くために1つだけでなく、2つ3つと方法を考えようとしている

	3年	旧3年	4年	旧4年	5年	旧5年	6年	旧6年
5月	2.71	2.94	2.47	2.74	2.33	2.22	2.18	2.64
目標	3.00	3.14	3.10	3.00	2.90	2.50	2.30	3.00
1月	2.54	3.23	2.54	2.78	2.31	2.67	2.32	2.56

以下、各学年の重点指導事項と結果(一部)を示す。

- 算数科 3年
設問 問題を解くために数直線や線分図を使って考えようとしている。
5月(2.29) 数値目標(2.76) 1月(2.42)+0.14
- 算数科 4年
設問 習ったことを生かして問題づくりをするのが好きである。
5月(2.30) 数値目標(2.90) 1月(2.58)+0.28
- 算数科 5年
設問 問題を解くために数直線や線分図を使って考えようとしている。
5月(2.41) 数値目標(3.00) 1月(2.69)+0.28
- 算数科 6年
設問 問題を解くために数直線や線分図を使って考えようとしている。
5月(2.10) 数値目標(3.00) 1月(2.30)+0.31
- 国語科 3年
設問 友だちに話すとき、話す順序を考えながら話そうとしている。
5月(2.82) 数値目標(3.16) 1月(2.74)-0.07
- 国語科 6年
設問 友だちに話すとき、話す順序を考えながら話そうとしている。
5月(2.57) 数値目標(2.95) 1月(2.81)+0.24
- 理科 4年
設問 実験をするとき、何のために実験をしているかが考えられている。
5月(2.73) 数値目標(3.10) 1月(2.98)+0.25
- 理科 5年
設問 生き物を観察するときに、毎日続けて観察することができている。
5月(2.53) 数値目標(3.00) 1月(2.33)-0.20

(3) 成果

重点指導事項として設定したもの38項目の内、10%以上の児童が意識を向上させることができたものは17項目(20%以上は10項目)であった。

重点指導事項に設定しなかったものも含めて全体的に見ると、算数科では習ったことを生かして学習に取り組もうとする態度や分からないことを分かろうとする意欲が3ポイント以上と高い。国語科では文章を書くことへの意欲が高くなっている。国語を研究教科とした3年、6年においては総じてポイントが上昇している。

3 学習状況調査の結果から 3年は現4年、他も同様

[昨年より5ポイント以上アップ ○昨年よりアップ 昨年よりダウン 3ポイント以上ダウン]

(1) 国語

学年	関心・意欲・態度		知識・理解		話す・聞く能力		書く能力		読む能力	
	15年度	14年度	15年度	14年度	15年度	14年度	15年度	14年度	15年度	14年度
3年	82.4	92.1	89.5	84.1	95.8	91.8	85.8	78.6	76.9	84.2
県との差	△1.5	3.9	○1.9	-2.9	◎7.8	1.4	◎8.0	-1	△-1.5	0.7
4年	91.4	77.9	85.3	74.6	94.3	81.1	71.8	71.6	74.5	78.4
県との差	◎6.8	-4.9	○1.9	-2.9	△2.0	4.5	○0.2	-0.8	▲-6.1	2.3
5年	84.6	88.2	90.6	83.2	95.5	66.7	75.0	78.3	61.6	66.1
県との差	◎6.5	1.3	○1.5	0.7	◎3.0	-3.8	○-0.6	-1.8	◎7.8	1.1
6年	77.5	93.4	88.8	85.4	95.8	90.2	60.8	78.3	57.6	67
県との差	△3.4	3.5	○1.1	-0.8	○2.3	-2.4	○-2.3	-6.8	▲-1.1	2.1

(2) 算数

学年	関心・意欲・態度		思考・判断		技能・表現		知識・理解	
	15年度	14年度	15年度	14年度	15年度	14年度	15年度	14年度
3年	71.7	12.1	74.9	66	84.9	84	87.0	81.6
県との差	▲-5.1	12.1	○0.8	-1.7	○3.3	-0.6	◎3.4	-3.1
4年	76.4	92.3	81.3	72.8	92.2	83.6	78.7	72.7
県との差	△1.5	4.5	◎3.8	-2.1	○2.6	2.3	○-2.3	-4.4
5年	82.1	77.5	76.1	66.4	83.3	82.1	85.6	52
県との差	○2.8	-0.2	○-1.6	-5.6	△-0.4	1.6	○2.0	-1.4
6年	50.6	71.3	73.3	83.1	89.9	85.5	70.8	86.9
県との差	0.8	0.8	○3.7	2.9	○2.6	0.1	△7.1	9.1

(3) 理科

学年	関心・意欲・態度		思考・判断		技能・表現		知識・理解	
	15年度	14年度	15年度	14年度	15年度	14年度	15年度	14年度
3年	74.8	64.8	60.6	88.5	71.3	95.3	83.3	86.5
県との差	◎3.8	-16.3	△-3.1	-2	▲-4.3	2.7	△-0.1	0.5
4年	84.7	97.5	72.5	69.6	81.0	87.6	79.3	78.9
県との差	▲0.5	7.2	◎5.5	-6	△1.2	3.1	△0.2	1.7
5年	78.4	92.2	73.3	70.7	78.0	95.9	75.9	94.1
県との差	▲-1.7	4.4	○0.8	-3.9	△-1.6	1	▲-3.6	3.5
6年	89.3	80.3	85.2	89.5	82.4	83.6	88.3	96.3
県との差	○1.5	-3.4	▲-1.6	6	△-3.3	-1.4	△1.4	2.2

(4) 成果

国語科

昨年度は「書く」能力が全体的に下回っていたが、現6年は下回っているが全体的には大きく伸びている。20項目中、10項目で大きな伸びが見られた。「読む」能力の低下が懸念される。

算数科

昨年度は「思考・判断」「知識・理解」において県平均を下回っていた。一部の学年で下回っているものもあるが、昨年度よりも伸びが見られる。昨年度、算数を重点教科として、少人数指導の中で多様に考える力の育成に取り組んだ成果と言える。

理科

大きく伸びを見せているものもある反面、低下も多く見られる。昨年度、TT指導を3・4・6年で行っていたが、技能、知識・理解での-傾向が著しい。少人数での指導を充実し、基礎・基本の定着を行った。

2. 今後の課題

- (1) 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発
 実践の蓄積
 多くの実践を残すことができたが、算数では全単元の1/4程度に過ぎない。ティーチャー制を生かし、さらに多くの単元での開発を行いたい。また、本年度実践単元を修正し、より効果的な教材を開発していきたい。
- 開発教材の検討
 開発した教材についての検討が不十分であったので、実践前、実践後に検討できるような指導体制をさらに工夫し、とくにつまずきに視点をあてた教材の開発を行っていききたい。
- (2) 少人数指導など個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫
 指導体制の充実
 チーフのリーダー性が発揮できるような研修を組み入れたり、チーフを中心に話し合う時間を現職教育の中で確保したりし、計画、実践、修正、評価ができる体制をつくっていききたい。
- 学び方の意識向上
 学び方の意識を向上させることが十分にできたとはいえない。1単元の中で何を重点的に指導するかをさらに明確にし、年間を通じて、バランスよく指導ができるように年間計画作成の段階から、位置づけていきたい。
- 基礎・基本の定着と評価体制の充実
 1時間毎、また、一人一人の児童のつまずきを追跡し、次の時間(次の関連単元)につなげていくために評価ソフトウェアを活用した評価体制を確立したい。

学力等把握のための学校としての取組

学び方等に関する児童の意識調査(年2回)
 計算力の調査(正答数, 時間の推移 年2回)
 漢字力定着度の調査(年1回)
 県実施の学力状況調査(年1回)
 県版テストの記録(適時)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

現職教育の公開(日時:平成16年2月13日)
 5つの授業公開(1~5年少人数授業及び習熟度別学習)
 郡内小学校各校に案内し、25名の参加者
 本校ホームページに1・2学期の実践による学習指導計画書及び開発教材(算数15単元、国語10単元、理科5単元)を公開
<http://www.town.ryonan.kagawa.jp/ed/takinomiya-e/>

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校	
【学校規模】	6学級以下 13~18学級 25学級以上	7~12学級 19~24学級	
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	T・Tによる指導 その他	
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作 理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有 無	